

心疾患分野の評価及び今後の取組方針

- 1 心疾患対策に関する個別施策と指標の評価をまとめたものである。施策の目標や現状、指標の達成状況を可視化し、将来的な対策の方向性を検討するために活用される。
- 2 高齢化に伴い心疾患患者が増加しており、個々の医療機関だけでは対応に限界がある。関係機関での連携促進が必要である。

取組と指標の整合性 (セオリー評価)	○今後随時、必要に応じて修正を検討する。 ○各施策は、健康指導の強化、検診受診率の向上、急性心筋梗塞患者への迅速対応、大動脈緊急症の死亡率低下など、具体的な目標に基づいている。指標としては、研修会の開催数、健診受診率、救急搬送時の心電図検査実施数、PCI可能医療圏の数などが設定されており、施策の実施状況と整合している。
取組の実施状況 (プロセス評価)	○予防分野: 保健指導担当者の研修会は計画通り維持されており、県民向けの講座・イベントの回数も増加傾向にある。 ○診断・治療分野: 特定健診受診率や特定保健指導実施率は横ばいまたは若干の向上が見られるが、目標達成には更なる取り組みが必要。 ○急性期医療: 救急搬送時の12誘導心電図実施数は増加しており、改善傾向が確認できる。 ○実施率が低下した原因がどこにあるのか実際を確認するため聞取調査を行う必要がある。
指標の進捗状況 (インパクト評価)	○中間アウトカムは部分的に改善している項目はあるものの、全体的に減退している。高齢化が各種指標は悪化することが想定されるため注意が必要である。 ○虚血性心疾患の発症数はやや悪化している。 ○指標をリアルタイム、随時アップデートできるような仕組みを検討する必要がある。 ○人手不足により業務が回っていない可能性を考慮する必要がある。
今後の取組方針 (総合評価)	○高齢化により心疾患患者が増加することが明らかである。病病連携、病診連携、医療機関と介護施設等の連携を促進する必要がある。 ○心不全患者は、日ごろから血圧・体重等を測定し悪化する前に変化を把握、受診することが大切である。総合病院、かかりつけ医、関係施設の連携、患者への働きかけを促進する必要がある。 ○研修会や講座の実施頻度は一定以上を維持しつつ、より実効性の高い内容にする。 ○特定健診や保健指導の受診率を向上させるため、受診促進策を強化する。 ○救急対応の強化について、中間報告の頻度をあげ、どこに問題があるかどうかを明確化できるようにする。 ○指標データが悪化したのか、改善したのかがわかりにくい。悪化、改善の表示を再検討すべき。